

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会
第 9 回理事会議事録

| | |
|-----|--|
| 日 時 | 平成 25 年 10 月 29 日 12:10～13:25 |
| 場 所 | 産業技術総合研究所 生命情報工学研究センター 10 階会議室 (東京都江東区青海 2-4-7 産総研臨海副都心センター別館) |
| 出席者 | (本人出席) 浅井理事長、清水副理事長、油谷理事、川島理事、木下理事、藤理事、松田理事、水野理事、岩崎理事、大林理事、奥村理事、小森理事、美宅理事 (表決書提出) 佐藤理事、馬見塚理事、関嶋理事 以上 16 名出席扱 (オブザーバ) 渋谷監事、木下 2014 年会長／東北地域部会長／認定試験 WG メンバー、坂井 (事務局、書記) |

議長 浅井理事長 (定款第 35 条による)

配布資料

- ・ 議案書
- ・ JSBi 年会開催規定
- ・ 学術会議バイオインフォマティクス分科会からの報告
- ・ (2014 年年会関係) 連合大会第 1 回ローカルコミティ議事
- ・ (2014 年年会関係) 連合大会第 1 回ローカルコミティ議事メモ

議事

議事録署名人の選定

議長より議事録署名人を選任したい旨の提案があり、油谷理事と岩崎理事が全員の賛成により承認された。

審議事項

1 2013 年年会の会計監査選出

年会開催規定により、1 名以上の選出が必要とされた。昨年の会計監査だった水野理事が立候補し、全員の賛成により承認された。

2 学術会議バイオインフォマティクス分科会からの報告

配布資料「学術会議バイオインフォマティクス分科会からの報告 報告事項」に基づき、学術会議委員を務める美宅理事より状況が報告された。

報告概要：

- (1) 学術会議バイオインフォマティクス分科会は日本学術会議に提言書を提出しようとしている(〆切は 2014 年 4 月 30 日)。提言書は予算や実行権限がともなうものではないが、政府に対し未来のあり方を提言するものである。
- (2) 提言に向け、若手による議論を行いたいので、人選などで JSBi に協力をお願いしたい。
- (3) 生物物理分科会がバイオイメージング研究所を提案している件では、3 月にシンポジウムが行わ

れる予定。バイオインフォマティクス分科会が提案している研究所構想と相補的ともいえるがオーバーラップもあり、現状ではバイオインフォマクス分科会とはどう連携するか不明確である。

議論：

- ・ (2) について、「(「若手」とは?) 未来指向で話をする人、実際に自分で研究をやっている人。(理事会に先立って行われた小原先生の基調講演にあったような) 20年後を考える人。(美宅)
- ・ 提言書には「JSBi の協力」を明記するのか? 「若手」の定義がこのように曖昧な表記のままならば反対せざるを得ない。(川島)
- ・ 提出の前に JSBi が提言書の内容について承認するプロセスはある。内容には分科会が責任をもつが、できた提言書に対して JSBi としてバックアップできるかどうかを議論してほしい。(美宅)
- ・ 浅井会長の巻頭言(最新の JSBi ニュースレター27号)のように、分野を拡大する議論をすべきである。

3 2014 年年会について

配布資料「連合大会第1回ローカルコミッティ議事」「同 議事メモ」に基づき、木下賢吾 2014 年年会会長より準備状況(ローカルコミッティ初期メンバーと役割、日程(2014年10月2~4日)、会場(仙台国際センター)等)が報告され、ローカルコミッティメンバーは承認された。CBI 学会は別途独自年会を行うことを打ち出しており、これまでの連合大会とは態度が変わったが、昨年・今年と同様に「連合大会」として行う方針。GIW との共催も検討する。

議論：

会計

- ・ 会計は連合大会会計として学会からは独立でやってよい(浅井)

GIW 参加者数と広報

- ・ GIW の最近の参加者数は 200 人を切っている(浅井)。やるなら多くの参加者を集めたい(木下)。
- ・ 12月のシンガポールでの GIW で PR するか?(川島)。状況によってはする。(浅井)

AASBi との連携関係、AASBi 会長

- ・ GIW は、AASBi (アジアのバイオインフォマティクス学会連合) のオフィシャルカンファレンスで、日本で次回開催を検討していることは AASBi から励まされている。他国で立候補している国はない。各国間で講演者を協力しあうという伝統があり、招待講演者の推薦を頼める。(松田)
- ・ AASBi の運営体制：各国の各学会から代表役員を出している。AASBi 会長は、GIW 開催国の役員がやることになっているが、会長としてとくに権限があるわけではなく会議の際の議長をする程度である。来年日本で GIW をするなら会長を出さなければならない。(松田) AASBi 会長は必ずしも JSBi 会長でなくてもよいのか(浅井)

年会の企画、方向性

- ・ GIW とはぜひ一緒にやって、発展していけたらいいと思う(川島)
- ・ NGS 現場の会との連携については、年会の企画に応じて検討したい(岩崎)
- ・ 医学部とのコネクションを作り、喜ばれたい。現場の会が解析チュートリアルなどやってもらえたらよい(木下賢吾)
- ・ 東北メガバンクが表に出て日本語セッションが増えるのは歓迎。(浅井)

学会の方向性について

- ・ JSBi を活性化したい。現状は、有名なバイオインフォマティクス研究者の中にも JSBi 非会員がい

る。NGS 現場の会のほうが面白いから JSBi の年会には来ない人もいる。(浅井)

・バイオインフォマティクスがメインの新学術は取れていない。ゲノム系の新学術にバイオインフォマティクス担当班がある状態。JSBi の目指す方向は、どちらだろうか？

ーまとめて大きい新学術を取りに行く or

ー散在している各バイオインフォマティクス班をまとめる「まとめコミッティー」？(川島)

・医学関係者は必ずバイオインフォマティクスが大事だというのが必ずしも JSBi とつながっていない。なぜか。バイオインフォマティクスの人が、期待される生命メカニズムの解明をあまりやっていないところに、学術会議の問題意識がある。(美宅) 新学術なら、解くべき問題の設定が必要。道具としてのバイオインフォマティクスとはそこがずれている。(大林)

・「バイオインフォマティクスをやっていて JSBi 年会に来ていない人を取り込む」と「裾野を広げる」のとは別の問題。(岩崎)

・年会に行けば何が得られるかがわかりにくい。アセンブリなどわかりやすいトピックづくりは重要ではないか。(岩崎)

・参加してほしい人に参加してもらうためには魅力的な招待講演などのセッションが必要。お金がかかるがスポンサーが取れるか。賛助会員も減っている。学会に入るメリット、と、年会に出るメリットを考え直したい。理事会内にワーキンググループをつくって考えたい。(浅井)

・年会は 1 年前からの準備では遅い。2015 年の開催地・年会長をここで決めなくてよいのか？学会のカラーがないのも、これでいいのか？毎年変わってしまうのではなく、長年の積み重ねに、その年のオリジナルが加わるようなのがいいと思う。JSBi 年会は、見世物市なのかマッチングなのか、みんなが考えているカラーは何なのだろうか。(木下賢吾)

・2015 年年会の準備は年内に決めたい。学会改革にむけて、2014 年年会にもカラーを出していきたい。ローカルコミッティーに参加してセッションを考えるなど。(浅井)

・3 学会連合は、このままでは CBI が抜けて行くと思われ、わざわざ連合大会規則をつくってガチガチにやるのではなく、たまたま一緒にできるならやりましょう程度のスタンスか。(松田)

・せっかく年会で集まっているので、明日も昼に集まって議論する。(浅井)

審議は以上、予定時刻を過ぎ 13:25 に閉会となった。

上記の議論を明確にするため、議長及び議事録署名人において次に記名押印する。

平成 25 年 10 月 29 日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

議

長

浅井 清



議事録署名人

袖谷 幸仁



同

岩崎 清

